

令和4年度第2回草津市文化振興審議会 会議録

▼日時：

令和4年10月14日（金）14：30-16：00

▼場所：

草津市役所 6階 教育委員会室

▼出席委員：

松本会長、大塩副会長、五十川委員、澤委員、富田委員、成田委員、涌井委員、内山委員、西村委員

▼欠席委員：

中村委員

▼事務局：

増田部長、田中副部長、上原生涯学習課長、岡田生涯学習課長補佐、松岡主査、木内主任

▼傍聴者：

1名

1. 開会

【部長挨拶】

本日はお忙しい中、御出席を頂きまして、誠にありがとうございます。

また、平素より本市文化行政に格別の御理解と御協力賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、前回の第一回目の審議会においては、新しい委員の方をお迎えし、本市の文化振興計画の概要について御説明をさせていただきました。本日はその計画の計画期間が10年のうち5年を経過しましたことから、中間評価について御審議をいただく予定でございます。特に、重点プロジェクトや基本施策に設定した成果指標について、御意見等を頂戴したいと考えております。

委員の皆様方におかれましては、忌憚のない御意見、御提言をいただきますよう、お願い申し上げます。開催にあたっての挨拶とさせていただきます。

本日は、どうぞよろしくお願いたします。

2. 審議事項（草津市文化振興計画の中間評価）

【会長】

文化振興計画における当時の評価ポイントが、コロナ渦により実態に合わなくなったという指摘もあるため、皆さんの御意見を聞きたいということが今回の主旨である。それでは重点プロジェクトの進捗について事務局より説明をしていただく。

(1) 重点プロジェクトの進捗

【事務局】

〈資料に基づき説明〉

【会長】

文化振興計画の中で、重点プロジェクトが3つある。1つ目は、次世代文化体験プロジェクト、2つ目は、13万人の文化プロジェクト、3つ目はふるさと草津のこころプロジェクト。1つ目と2つ目は順調に進捗しているが、3つ目については試行段階となっている。このことについて、皆さんの御意見を頂戴したい。

【C 委員】

園児はマスク生活の中で制限がとても多く、外に出る機会が減っている。昔であれば、子どもから「〇〇に行ってきた。」といった報告があり、先生との対話があった。最近少しずつではあるが、そういった話が出てきており、今からなのかなと思っている。

【B 委員】

草津歌劇団は10年が過ぎて、当時小学生であった子どもが大学生となった。たくさんの子どもがアートを体験する中で、舞台芸術に関心をもつ子がスタッフとして手伝いに来てくれたり、芸術大学に進んだ子も出てくる等、舞台裏・表両方それぞれの道を進んでいく人が出てきた。ようやく成果がでてきたと感じている。

【A 委員】

草津市の文化財保護審議会に参加しており、常に意識しているのは、文化庁からどういう予算が配分されるか気を配りながら、自分たちの意見も伝えるということである。

草津市には史跡が3つある。専門家の意見をいただきながら、どのように保存・活用するかという具体的な実行計画が今年くらいから動き出すという状況である。形として出来上がれば皆さんに報告し、意見があれば向こうの審議会に伝えるといった連絡係もしたいと考えている。

【D 委員】

子どもたちが「〇〇に行った」という報告を聞くことが少なくなったが、ここ最近では少しずつ動き出したと感じている。学校としても校外学習や修学旅行等といった部分についても、動き出していけたと安心している。サンヤレ踊りについては、6年生の子どもたちが着物や道具を見せていただき、中には一緒に踊るといった機会を得ることができた。無形文化遺産への登録に向けて、凄い熱気があり、地域の方々のふるさとへの思いが感じられて、ありがたかった。

知り合いの子どもが草津歌劇団に入ったことで、自信が出てきたことが手に取るようにわかったという話を聞いた。自分がやりたいと思った時にやれる場があるのが大事であると感じた。

【会長】

文化の継承には断絶がある。今の親世代は公害で川が汚くなり、川に近づいてはいけなかったと言われた時代があったが、公共下水道が出来て川がきれいになったことで、近年魚が戻ってきた。しかし、川に近づくなと言われていたために、川でどう遊んだらいいのか文化の継承がない。河川で水際空間を作ってもどうしたらよいかかわからないので、一世代を超えて川遊びを教えるNPO団体がある。一回途切れると失われてしまう文化があることも注意しないといけない。

【E 委員】

アートフェスタくさつの令和 2 年、令和 3 年の実績について、何名を予定したうちの人数なのかを教えてください。観客動員数を成果指標にすると、どうしてもコロナの影響で指針が意味をなさなくなるため、どれくらいの収容人数でこれだけの参加人数であったのかという情報が重要である。

【事務局】

令和 2 年、令和 3 年はアミカホールにて星降る映画館のみの開催であったが、約 300 人の収容人数に対して 1 つずつ座席を空ける対策をとっていたため、定員を 150 人とした。

【E 委員】

YouTube での視聴は良いと感じた。今後もし取り入れるのかをお聞きしたい。

【事務局】

オンラインでの配信は、コロナ渦で文化振興を進めていくために必要となってきたと考えている。他の分野においても、例えば成人式では、コロナ渦により、帰省できない中でも、式典の雰囲気の中継で見ただけのようにオンライン配信を行っている。文化振興においても、出来るところから取り組んでいきたい。

【F 委員】

アートスタートは、良いところに目をつけている。私も未就園児向けのイベントを開催しているが、皆さん「行くところがない」と仰られている。ぜひこの事業を大切にしていきたい。

【G 委員】

くさつのある暮らし展に見学に行ってみたが、文化財を身近に感じられる良いイベントであると感じた。アートフェスタが来週土曜日に開催されるということであるが、そのパンフレットは非常に良いものであった。このようなイベントが開催されているということを広めることが大事であると考えている。

【副会長】

G 委員の仰っていたパンフレットだが、私も授業で学生たちに紹介した。他のパンフレットと比べて、デザインが良く、情報もしっかり書かれていて、紹介しやすいものであった。パンフレットを見た人も、行ってみたいと思えるようなものであったのではないかと。また、未就園児を対象としたイベントは、これまで親が行きたくても子どもがいるから、託児施設を利用するという話を聞いたことがあるが、そうではなくて未就園児まで一緒にイベントを体験できるのは草津市の取り組みの姿勢としてよいことである。

(2) 各基本施策の成果指標

【事務局】

〈資料に基づき説明〉

【会長】

文化振興計画の数値がコロナ渦により目標値と乖離している。策定から 5 年目を迎えたが、最終年度の目標値に対して令和 5 年度から令和 8 年度までの目標値を見直すのかどうか今回の議題となる。皆さんの御意見を頂戴したい。

【G 委員】

見直せばよいと思うが、そうした場合にどの数値を設定することが正しいのか根拠がない。もし数値を下げるのであれば、徐々に下げるのはおかしいので、ドンと下げるべきである。

【F 委員】

見直す必要はないが、全ての目標値がコロナ渦により乖離しているものなのかどうかは検討する必要がある。

【E 委員】

見直す必要はない。今後見直すことがあるのであれば、基本施策②の来館者数は収容率に対して何%収容したというような形にした方がよい。

【D 委員】

見直す必要はない。F 委員が仰られたように、本当にコロナ渦によるものなのかは検討する必要がある。

【A 委員】

見直す必要はない。文化というのは、どこまでの数字を達成すれば良いというものがないので、難しい。

【B 委員】

コロナ渦中ではあるが、当初の目標に対して、頑張っていくということを考えれば、見直す必要はないと思う。

【C 委員】

見直す必要はない。コロナや災害等があった際にどのように変化するのが大事であって、どのような状況であっても目標値を変えてはいけないと思う。

【会長】

市側としての意見はどうか。

【事務局】

目標はあくまで目標として、この数字をいかに回復させるか、どういう事業で回復させようとするのか、やるべき内容に力を入れて考えていければと思っている。

【F 委員】

市民意識調査の結果による数値を成果指標としているものは、期待しているように上手く上がるものなのか。

【事務局】

市民意識調査は無作為に 3,000 人を抽出している。その対象者 1 人 1 人に対して文化振興がこういうことをやっていますという説明をして回るわけにはいかないので、普段から市民が接する文化的活動や、イベントで市が文化的なものをやっているなというイメージを醸成する必要がある。情報発信が重要であると考えている。

【会長】

5 年前に論議を重ねて、作り上げた目標値であることから最終目標は簡単には変えられない。中間の段階では、当初想定していた数値を変えないでよいと思うがどうか。

<一同了承>

その他自由意見

【E 委員】

アートセンターの相談にはどのようなものがあるのか。

【B 委員】

アートセンターは文化ホールの中にある事業部で、アーティストの紹介であったり、学校からはあおばなの歌を子どもたちに教えたいので音源等をもらえないかといった相談がある。

【E 委員】

周知はどのようにされているのか。

【B 委員】

SNS 等を通じて拡散してもらえるように、ホームページのリニューアル等を行っている。

【F 委員】

今回、アートフェスタもインスタグラムで情報発信されている。

【事務局】

今回初めてインスタグラムを使って PR しており、プレイベントの時にはインスタグラムをみて来場された方が大勢来られ、効果を実感した。

【会長】

インスタグラムは主催者発信のアカウントか。

【事務局】

そうである。参加したアーティストや来場いただいたお客さんに拡散していただいている。

【会長】

それはどうやってチェックするのか。

【事務局】

アンケートや来場者から直接伺った。

3. 閉会
